

令和5年9月3日
今週のベストショット



青松園B 雁の巣ライナーズ 対 ブルーマーリンズ戦
見事なチェンジアップでタイミングを外す雁の巣ライナーズ柴田投手。

写真：三苦三球会 藤澤 隆紀

雁レク3 奈多サンデーズ打線爆発快勝！優勝に王手！！

和白新町パイレーツ（2勝6敗1分）00110 2 岩吉●-朝野

奈多サンデーズ （8勝1敗）0238× 13 塚本○-川原

HR：野崎（奈多サ）3BH：野々下、八島（奈多サ）2BH：山本（新町パ）

盗塁：山本（新町パ）野々下2、川原、柴田、近藤（奈多サ）

一回表和白新町パイレーツは、奈多サンデーズ塚本投手のチェンジアップを織り交ぜた緩急のある投球に苦戦し無得点。一回裏サンデーズもいい当たりもあったが無得点に終わる。試合は二回裏サンデーズの攻撃で動き出す。九番川原選手の内野安打等で二死二三塁のチャンスを作ると、一番山崎選手の見事なセーフティスクイズで先制の2点を奪う。三回表パイレーツは盗塁など足で相手のミスを誘い、すぐに1点取り返す。三回裏サンデーズは、二番柴田選手、三番野々下選手が連続ショート内野安打で出塁すると、一死二三塁で五番八島選手のレフト線へ適時三塁打、七番宮口選手のピッチャー強襲ヒットで3点。四回表パイレーツはレフト前ヒットの八番松園選手を二塁において一番山本選手の左中間タイムリー二塁打で1点。しかし四回裏サンデーズは九番川原選手から三連続バント安打で1点を取ると、三番の野々下選手があと少しで柵越えという2点適時三塁打。四球の近藤選手を挟んで五番八島選手がセンター前2点適時打、六番松本選手のレフト前、代打野崎選手のライト越え3ランHRは試合を決定づける一打となった。両チーム毎イニング好機を作り面白い試合だったが、今期の勢いに勝るサンデーズがコールド勝ちで優勝に大手を掛けた。（記事：ソルトベイスターズ 山ノ川 史教、写真：坂井 駿）



初回すべてのアウトを三振で取るサンデーズ塚本投手。



初回のピンチをしのご和白新町パイレーツ岩吉投手。



二回裏、二死二三塁でセーフティスクイズを決めるサンデーズ一番山崎選手。



三回表、パイレーツ白岩選手のライト前ヒット。



三回裏、奈多サンデーズ五番八島選手のタイムリー三塁打。



四回表、パイレーツ一番山本選手のタイムリー二塁打。



四回裏、三者連続バント安打を決めるサンデーズ二番柴田選手。



四回裏、あわや柵越えの三塁打、サンデーズ三番野々下選手。



四回裏、快足を飛ばしての右越えHR、サンデーズ野崎選手。



五回表、三球三振に打ち取るサンデーズ砂場投手。

※ ルール共有

奈多サンデーズの攻撃中、一塁ランナーがピッチャーの投球時に一塁ダブルベースのオレンジ側（フェールグラウンド側）を踏んでいたため、離塁アウトになりました。

一塁のダブルベースのルール

ダブルベースは、白色とオレンジ色の2色で作られています。

白ベースはフェア地域に、オレンジベースはファウル地域に固定されます。

※ライン（白線）はフェア地域に入るので、オレンジベースはラインに掛からないように設置します。

打球が直接ベースに触れた場合

打球がゴロやライナーで直接ダブルベースに当たった場合

白ベースに当たったときはフェアボール

オレンジベースに当たったときはファウルボール

となります。

打球がフェア地域に転がった場合

一塁でプレーが行われたとき

内野ゴロや外野ゴロ、振り逃げの時など一塁でプレーが行われるときは、打者はオレンジベースを踏まなければいけません。

オレンジベースではなく白ベースを踏んでもセーフにはならず、ベースを踏んでいないと判断されてしまいます。

白ベースを踏んで走り抜けても、ボールが来る前に白ベースに戻ればセーフですが、その前にボールが来たりタッチされればアウトとなります。

一塁でプレーが行われないうち

ヒット性の当たりなどで一塁でプレーが行われないうちは、オレンジベースを踏んで駆け抜けても、白色ベースを踏んで回り込んでも、打者はどちらのベースを踏んでも良いとされています。

ただし、次のプレーが始まる前には白色ベースに戻る必要があります。

また、いったん白色ベースでプレーした走者がオレンジベースのみに触れていた場合、タッチされたり次の投球時にオレンジベースからスタートした場合はアウトになります。

守備側のルール

守備で使うのは基本的に白色ベースです。

ただし、「特例」として振り逃げ時やフェアボールがベースに当たるなどして**一塁側ファウル地域に出てしまい、そこから一塁へのプレイが行われたときは、打者と守備の両方がどちらのベースを使用しても良いということになっています。**

つまり守備がオレンジベースを使って、打者が白色ベースを駆け抜けることもありということです。

青松園B 2000年以来の勝ち越し目指すブルーマーリンス。毎回得点で善戦するも…

雁の巣ライナース (3勝4敗) 3450 12 柴田○-有村

ブルーマーリンス (4勝5敗1分) 3121 7 水上●、中山-坂本、石井

HR: 久保田 (美)、中内 (雁の巣) 坂本 (ブルー) 3BH: 宇野2 (雁の巣) 2BH: 有村 (雁の巣)

盗塁: 明瀬2 (雁の巣) 児玉 (ブルー)

打撃陣好調な雁の巣ライナースと、23年ぶりの勝ち越し目指すブルーマーリンス (今期最終戦) 戦が快晴のもとプレイボール。一回表雁の巣ライナースの攻撃は、一番好調の明瀬選手が四球を選び、すかさず盗塁。その後、ワイルドピッチ、パスボールとバッテリーエラーで先取点。一死後、三番有村選手四球の後、四番宇野選手が年齢を感じさせないパワフルなスイングでレフトオーバー弾丸ライナーのタイムリー三塁打で2点目。さらに五番中内選手がレフト前タイムリーで幸先よく3点を先制する。一回裏ブルーマーリンスも一番児玉選手が四球で歩くとすかさず盗塁。二番石井選手がレフト前ヒットを放ってチャンスを広げ、三番坂本選手がしぶとくショートへの内野安打を放つ。その間に一塁ランナー石井選手が三塁へ好走塁、慌てた一塁手久保田美仁選手が三塁への悪送球で2点目。さらに四番松園選手がライトへのタイムリー二塁打で同点とする。無死二塁とチャンス続くも、ここは雁の巣ライナース先発柴田投手が踏ん張り後続を3人で打ち取る。二回表雁の巣ライナースは一死後、一番明瀬選手が四球。ここで二番久保田美仁選手が先ほどの悪送球をバットで取り戻す、レフトフェンスを越える見事な2点本塁打で勝ち越し。さらに、三番有村選手レフト前ヒット、四番宇野選手の右中間を破るタイムリー三塁打で3点目。二死後、六番佐藤選手死球、七番上村選手がタイムリー内野安打と続き4点目、持ち前の攻撃陣で雁の巣ライナースがすぐさま勝ち越しに成功する。二回裏ブルーマーリンスは、一死後、九番中村選手がセンター前ヒットで出塁、続く一番児玉選手がサードゴロWプレーかに思われたが、サード中内選手がセカンドへの悪送球で一死二塁とチャンス拡大。ここで二番石井選手が痛烈なゴロでのセンター返し、誰もが抜けたと思われた投手左の打球を、柴田投手がグラブを背中から回して好捕。二塁フォースアウトで2アウト。ピンチを脱したかに思われたが、ブルーマーリンスはダブルスチールを仕掛け、一塁ランナーアウトとなるも、その間に本盗塁でしぶとく1点を返す。しかし、三回表雁の巣ライナースは九番太田選手が粘って四球を選ぶと、一番明瀬選手が手堅く送りバント。こちらがエラーを誘いチャンスを広げると、二番久保田美仁選手がライトへ1点タイムリー、四番宇野選手の内野ゴロの間に1点。さらに五番中内選手が右中間へホームランを放ち、この回ダメ押しの5点を追加。諦めないブルーマーリンスは三回裏に三番坂本選手のレフトへのソロ本塁打、最終回の四回裏は交代して入った九番原選手が内野安打、代打山本選手が2ストライクと追い込まれながらのバントヒットでチャンスを作り、こちらで交代して入った三番辻選手の内野ゴロの間に1点を返すも万事休す。打撃陣好調な雁の巣ライナースが、打撃戦をものにした。長打が目立ったが、四球や盗塁、犠打を絡めたそつのない攻撃と、守備の乱れもありながら最後まで粘り強く投げた柴田投手、チームワークが勝ちにつながった。対する久しぶりの勝ち越しを逃したブルーマーリンスであるが、試合前のアップは全員でグラウンドをランニング、また最後までベンチで声を出し続けた小柳副監督、粘りをみせた交代選手の活躍など全員ソフトで、来季こそ勝ち越し、そしてさらに上を期待できる今季最終戦であった。

(記事: 三苦三球会 渡邊 航一郎、写真: 藤澤 隆紀)



天然芝?の目立つグラウンドであいさつ。



一番明瀬選手と対峙するブルーマーリンズ先発水上投手。



先制のホームインをする明瀬選手、ベンチでハイタッチ。



雁の巣ライナーズ先発柴田投手



速球で、空振りを奪うブルーマーリンズ水上投手。



右中間へ三塁打を放つライナーズ宇野選手。



柵越えて嬉しさのあまり、ヘルメットを脱いだ久保田美仁選手。



絶妙なチェンジアップ柴田投手。



ホームランを放つライナーズ中内選手。



中内選手を笑顔でみんなでお出迎え。



ホームランを放つブルーマーリンズ坂本選手。



坂本選手をベンチでお出迎え。



追い込まれてからのセーフティーバント成功、山本選手。



最終回、ブルーマーリンズ辻選手。



ライナーズ久保田美仁一塁手、好捕で試合終了！！

※ ルール共有

二回表雁の巣ライナース久保田美仁選手が、フェンス越えのホームランを打った際、走塁中に故意にヘルメットを脱いだため、アウトではないかとブルーマーリンズ側よりアピールがあった。

→ 審判団は、下記ルールより、アウトにならないと説明

フェンスがある囲まれた球場で、打球が外野フェンスを超えた時点でボールデットとなり、打者走者に4つの安全進塁権が与えられるので、走塁の途中でヘルメットを故意に脱いでもアウトにはならない。ハイタッチも同様。

但し、塁の空過はアピールプレイによりアウトになる。

青松園A 奈多フェニックスの猛攻、12安打で13得点！！

奈多フェニックス（7勝2敗）00652 13 西藤○-実延

奈多クラブ （1勝8敗）01000 1 吉田●-安河内

HR：望月、丹羽、吉田（奈多フ）今林（亮）（奈多ク）3BH：西藤、実延（新）（奈多フ）

2BH：吉田、望月（奈多フ）

一回の攻撃は、両チーム無得点で終わり、二回裏に奈多クラブの今林亮選手が本塁打を放つ。三回表の奈多フェニックスの攻撃は、先頭の山本選手が四球で出塁すると、続く今林誠選手がライトへのタイムリーヒットを放ち同点に追いつくと、続く望月選手の本塁打、吉田選手の二塁打、西藤選手の三塁打などでこの回6点を獲得する。さらに、四回表の奈多フェニックスは、先頭の望月選手が二塁打で出塁すると、丹羽選手がライトの頭を超える本塁打を放ち2点追加。その後も安打を重ね、この回5点追加。五回表の奈多フェニックスの攻撃も、先頭の望月選手が出塁すると、吉田選手もライトへの本塁打を放ち、2点追加。何とかコールドを避けたい奈多クラブだったが、西藤投手を打ち崩すことができず、そのまま試合終了。奈多フェニックスが猛打光る試合運びで逆転優勝に望みをつないだ。

（記事・写真：三苦ホーネッツ 只松 輝大）



奈多クラブ先発の吉田投手。



奈多フェニックス先発の西藤投手。



四回表、本塁打を放ったフェニックス二番丹羽選手。



後方への難しい打球を捕球した木下選手。

各チームの編集委員さんをお願いします。

写真をもう少し送ってください。そして記事を練ってください。

そのためにはもっと撮影して、選手たちの話を伺ってください。それも足を使って！

せっかくホームランを打ってワクワクしてホームページを見たのに、写真が無いなんて、記事にもなって無いなんて・・・考えただけでも寂しくないですか？ いや、怒りを覚えませんか？

自分が写真を撮られる立場だったら、記事を書かれる立場だったらどういう写真を撮ってほしいか、記事にしてほしいかを考えましょう。

報告だけの短い記事や臨場感にかけた記事は、私がかかなり加筆していますし、写真が少ない試合は私が撮影している動画から静止画を切り取って貼ったりしています。

はっきり言って、写真や記事はセンス・・・ではありません。

バットの素振りや投げ込みと一緒にどれだけ多く数をこなしたか、相手のことを考えたかです。

11年編集部長をやっている私、奈多サンデーズの八島を唸らせる記事、写真を送ってこい！

それと何度も言っていますが、**月曜夜までに記事と写真を送ってくるように！**

水曜日朝にホームページが更新されていないときは、九割九分九厘九毛、記事が届いていないからです。

これは各チームの編集委員さんだけでなく、皆さんの声かけ、協力が必要です。

試合同様に、記事・写真も

「遅刻ダメ、絶対！」

何卒宜しくお願いします！

